

レンペイサンボウ 連幣算法 一冊。文政。天保の頃に互つて、三池流の算士の金澤及びその附近の社寺に奉納した算額十一面を蒐集したもので、當時同流の算法が如何に旺盛であつたかを語るものである。

レンリノマツ 連理松 河北郡津幡上口の田間なる墓地に在つて、二株の間一米五を隔てるが、四米餘の高に在つて全く一幹を爲してゐたもの。今は存せぬ。



ロウアンオウバイ 老菴黃梅 石川郡曹洞宗大乘寺五十一代の住持。筑後の人。久見の徳壽庵佛通に受業、次いで山城禪定寺心學宗老に嗣法し、永平寺に奉勅、筑後金泉寺に住し、文政十年大乘寺に晋んで開堂演法四年に互り、天保二年洛陽の邊に退隱、弘化三年正月廿八日寂した。

ロウシリカイ 老子偃解 一冊。上田耕著。老子の解義である。

ロウソクザ 蠟燭座 金澤下堤町に在つた。承應三年の書札に蠟燭屋彦四郎とあつて、此の頃銀座が蠟燭座を兼勤して同業者の取締に任じたのであり、蠟燭製造者は株立であつたが、寛文六年から自由營業になつた。後彦四郎は袋町に移り、舊家屋は尙蠟燭座であつたが、天保十年之を廢した。上記は金澤のことであるが、各郡にも亦それがあつたと見えて、文化の舊記に、『礪波郡蠟燭座本は城端、射水郡は高岡に座本あり。』と記したのもある。

ロウモウドクゴ 老耄獨語 十四册又は十五册。金子有斐の白山遊覽圖記に引用してある。白山嶺上の地名及び古傳説に就いて、鶴來村の春屋淨信が書いたものといふ。淨信は、通稱は市郎平というた。

ロウヤ 牢屋 (一)加賀藩—加賀藩の牢屋は、公事場・町會所・川下の三ヶ所に在つた。公事場は最高裁判所であるから、附屬の牢屋があつて未決・既決の罪人を收容した。又盜賊改方奉行の捕縛したものは川下の牢屋に、町奉行の檢學したものは町會所の牢屋に收容し、御郡奉行の檢學したものは町會所又は川下の牢屋を借牢とした。川下の牢屋といふのは、石川郡向増泉の藤内頭仁藏の邸地に在つて、仁藏の牢屋ともいひ、その監視を仁藏・三右衛門の二人に任せ、牢番人は藤内が勤めた。町奉行・御郡奉行・盜賊改方奉行共に、慣習によつてその職權で判決行刑し得るものと、公事場に送致するものがあつた。

(二)大聖寺藩—大聖寺藩では、割場牢・町牢の二つに別れ、同じ牢屋敷の中に置かれてあつた。

ロク 祿 藩侯に仕へる臣屬、又は藩臣に仕へる陪臣は皆祿を受けた。祿には土地を以てするものと現米を以てするものがあり、知行は前者で、切米・扶持米・合力米は後者に屬する。

ロクサツオサダメガキ 六册御定書 六册。一名類聚定書。正徳年間に四册御定書を各部門に類聚して、五册に編纂したものであるが、その際不要として省略した箇條及び追加の分を更に第六巻としたものである。

ロクジソウ 六地藏 白山尾添口より登り、

大汝岳を経て稍進んだ所、路傍左右に石地藏尊六軀があつた。寂乘記には、初め文和・延文の間に建てられたといふが、元祿中寶代坊が之を改造した。今は無い。

ロクシヤク 陸尺 藩政時代の小者の一種で、乗物昇を職とする。その藩侯に屬する者は御陸尺と役濟とに別れてゐた。役濟は乗物昇の現役を終つたもので、露地に關する雜務を掌つてゐた。

ロクシヨドウ 六所堂 白山記佐羅宮の條に『又有二社一名三所堂』とある。六所とは大永神書に『白山六所王子、一金劍宮、二三宮、三禪師宮、四佐羅宮、五若宮、六加寶宮』とあるから、それを併せ祀つたものであらう。

ロクシヨミヨウジン 六所明神 羽昨郡大福寺(部落)なる大福寺の境内に在つて、當村の鎮守であつた。この外にも能登には六所明神と稱するものが多く、いづれも六座の神體を祭つてゐる。大福寺の六所明神は、今高爪神社と稱し、祭神も一座となつてゐる。↓タカツメジンジャ 高爪神社。

ロクシヨミヨウジン 六所明神 鹿島郡大町に鎮座し、文政社號帳に祭神を大己貴命・句々廻馳命・阿遇突智命・埴山姫命・金山彦命・岡象女命とする。能登誌には之を御門主彦神社と記して居り、現に御門主比古神社と稱する。

ロクシンサイイコウ 鹿心齋遺稿 三册五卷。龜田鶴山の詩集で、内題に鶴山遺稿とある。天保六年大窪行の序、林瑜の鶴山翁像贊を巻首に加へ、各體の詩凡そ三百二十首を載せる。

ロクドウミツツカゲ 六動光景 源平盛衰記 壽永二年四月廿七日越前三條野合戦の條に、林六郎光明が郎等に六動太郎光景のあつたことを載せてゐる。光景は石川郡六動林即ち後の六斗林附近の出身ではなかつたか。

ロクドウムロ 六道室 白山の頂、大汝岳と御前岳との中間に在つた。越前名蹟考に、『六道といふ所に地藏堂あり。地藏はふりたる金佛、奥州の秀衡造立といふ。こゝに室あり。六道室といふ。牛首・風凰兩所より立て、毎夏土民參籠する由。』とあるが、今は存せぬ。その地藏は現に白峰の林西寺にある。

ロクトバヤシ 六斗林 石川郡泉野領内の小名。古くは六動林と書かれた。寛文十二年の箕浦高良筆記に、佐久間盛政が金澤城に入つた時、六道林・櫻島の下河原で多くの一揆を殺したとあるから、その頃は六道林と書いたのであらう。又元祿十四年の書上に、ろくと林は六斗林と書くが、その外の文字は知らぬとある。

ロクトバヤシ 六斗林 金澤の町名。明治四年四月戸籍編成の時より、六斗林一丁目・同二丁目・同三丁目・同弓町と稱する事となつた。

ロクベエムロ 六兵衛室 白山の御前岳と別山との間、標高二二二〇米の地にあつた室堂で、一に天池室ともいうた。今その遺址があるばかりである。

ロクマイマチ 六枚町 金澤の町名。元祿九年の地子町肝煎裁許附に、六枚町・南六枚町・北六枚町とある。今柳町入口の南から折